



栗田工業株式会社

2024年3月期

決算説明会

(証券コード：6370)

2024年 5月10日

1	2024年3月期 実績	p1- 8
2	2025年3月期 業績予想	p9-16
3	中期経営計画「Pioneering Shared Value 2027(PSV-27)」の進捗	p17-26
4	Appendix	p27-29

1 | 2024年3月期 実績

業績概況



(単位：億円)		2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)	
受	注	高	3,743	3,902	+ 4.2%	3,750
売	上	高	3,446	3,848	+ 11.7%	3,800
事	業	利	386	421	+ 9.0%	400
そ	の	他	△ 95	△ 8	—	△ 3
の	の	の				
支	支	支				
営	業	利	291	412	+ 41.9%	397
税	引	前	302	417	+ 38.3%	392
親会社	の	所有者	201	292	+ 45.0%	280
に	帰	属				
する	当	期				
利	益					
基	本	的	179.14	259.70	+ 45.0%	249.06
1	株	当				
た	り	当				
期	利	益				
(円)				
親	会	社	7.1%	9.3%	+ 2.2pp	—
所	有	者				
帰	属	持				
分	当	期				
利	益	率				
(ROE)				
投	下	資	8.0%	7.2%	△ 0.8pp	—
本	利	益				
率	(ROIC				
)						
為	替	レ	135.5	144.6		139.7
レ	イ	ー				
ト	USD	(
	円)				
	EUR	(141.0	156.8		152.5
	円)				
	CNY	(19.8	20.1		19.7
	円)				

- 第2四半期より、アルカデ・エンジニアリング社の新規連結影響を含む（一般水処理セグメントで計上）。
- 前期にクリタ・アメリカ社の水処理薬品事業に関するのれんの減損損失(△76億円)を計上したことから、営業利益以下の利益は大幅な増益。

セグメント別業績

(単位：億円)		2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)
全社	受注高	3,743	3,902	+ 159	3,750
	売上高	3,446	3,848	+ 402	3,800
	事業利益	386	421	+ 35	400
	事業利益率	11.2%	10.9%	△ 0.3pp	10.5%
	営業利益	291	412	+ 122	397
電子	受注高	1,699	1,658	△ 41	1,595
	売上高	1,493	1,727	+ 234	1,690
	事業利益	218	199	△ 18	194
	事業利益率	14.6%	11.5%	△ 3.0pp	11.5%
	営業利益	209	202	△ 7	194
一般水処理	受注高	2,044	2,243	+ 200	2,155
	売上高	1,953	2,121	+ 168	2,110
	事業利益	169	221	+ 52	206
	事業利益率	8.7%	10.4%	+ 1.8pp	9.8%
	営業利益	82	210	+ 128	203

電子

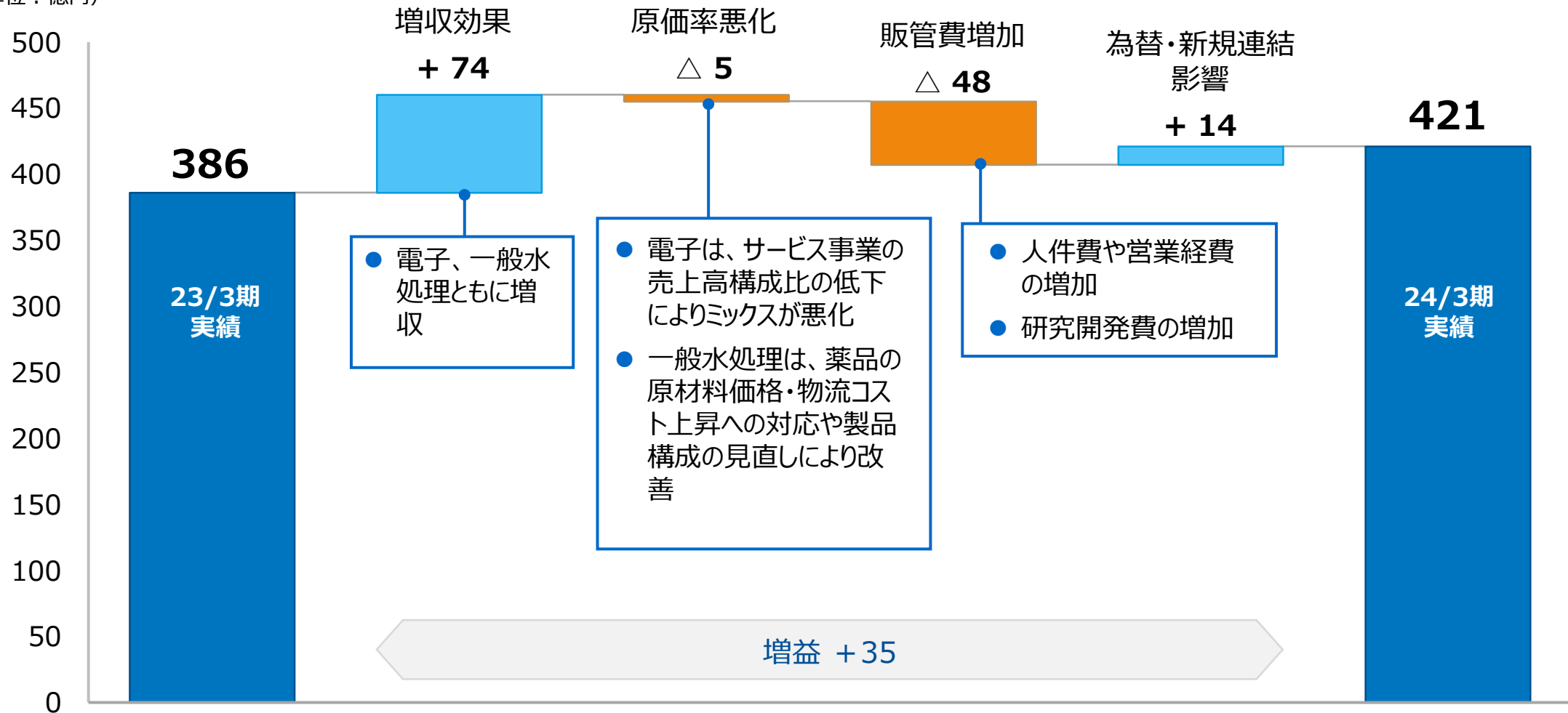
- 受注高は、前期に大型装置案件を獲得した反動により減少した一方、売上高は、装置および継続契約型サービスの増加により増収。
- 事業利益は、サービス事業の売上高構成比の低下による原価率悪化と販管費増の影響が増収効果を上回り減益。

一般水処理

- アルカデ・エンジニアリング社の新規連結に加え、北米における装置事業の拡大により受注高・売上高ともに増加。
- 事業利益は、増収と原価率改善の効果が、販管費増の影響を上回り増益。
- 営業利益は、前期にクリタ・アメリカ社ののれんの減損損失を計上したことから大幅増益。

事業利益の増減要因（前期比）

(単位：億円)



(単位：億円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)
受注高	1,699	1,658	△ 41	1,595
装置	686	626	△ 59	584
継続契約型サービス	423	466	+ 43	452
サービス	590	566	△ 25	560
薬品	107	104	△ 2	110
精密洗浄	277	249	△ 28	247
メンテナンス	207	212	+ 5	203
売上高	1,493	1,727	+ 234	1,690
装置	501	703	+ 202	698
継続契約型サービス	421	466	+ 44	450
サービス	571	558	△ 13	542
薬品	107	104	△ 3	108
精密洗浄	276	250	△ 26	248
メンテナンス	188	203	+ 16	187

- 装置の受注高は、前期に大型装置案件を獲得した反動により減少。売上高は、主に日本と中国の受注済み案件の売上計上により増収。
- 継続契約型サービスは、水供給サービスの増加により増収。
- 精密洗浄事業は、顧客工場の稼働状況の影響を受け減収。
- メンテナンスの受注高は、概ね前期並みだが、売上高は、工事進捗により増収。

売上高増減要因

(億円)

オーガニック増減	+ 200
為替影響	+ 34

一般水処理セグメント

(単位：億円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)
受注高	2,044	2,243	+ 200	2,155
装置	264	419	+ 155	326
継続契約型サービス※	74	104	+ 30	109
サービス※	1,706	1,721	+ 14	1,720
薬品※	1,194	1,166	△ 28	1,175
メンテナンス	435	466	+ 31	457
その他	76	89	+ 12	88
売上高	1,953	2,121	+ 168	2,110
装置	200	298	+ 98	277
継続契約型サービス※	65	102	+ 37	105
サービス※	1,688	1,721	+ 33	1,728
薬品※	1,190	1,166	△ 24	1,163
メンテナンス	415	458	+ 42	463
その他	83	97	+ 14	102

- 装置は、アルカデ・エンジニアリング社の新規連結に加え、北米における官公需や電子産業向けの案件獲得により受注高が増加。売上高も受注済み案件の工事進捗により主に海外で増収。
- 継続契約型サービスは、日本、海外ともに伸長。
- 薬品は、製品構成の見直しや主に中国での顧客工場の稼働状況の影響により、受注高・売上高ともに減少。
- メンテナンスは、主に洗浄案件の獲得により受注高は増加。売上高も洗浄案件の実施や工事の進捗により増収。

売上高増減要因

(億円)

オーガニック増減	+ 47
為替影響	+ 76
新規連結影響	+ 45

※ セグメント変更に伴い暫定的に集計していた2023/3期の数値を実績値として再集計しています。

地域別売上高・CSVビジネス売上高



地域別売上高（全社連結）

(単位：億円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)
日本	1,785	1,984	+ 199	1,950
アジア	767	859	+ 93	849
北南米	599	636	+ 36	640
EMEA	295	370	+ 74	362
合計	3,446	3,848	+ 402	3,800

地域別売上高（一般水処理セグメント）

(単位：億円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)
日本	997	1,068	+ 71	1,046
アジア	246	225	△ 21	236
北南米	415	458	+ 43	467
EMEA	295	370	+ 74	362
合計	1,953	2,121	+ 168	2,110

地域別売上高（電子セグメント）

(単位：億円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)
日本	788	916	+ 128	904
アジア	521	634	+ 113	613
北南米	184	177	△ 7	173
EMEA	—	—	—	—
合計	1,493	1,727	+ 234	1,690

CSVビジネス売上高

(単位：億円)	2024/3期 実績	売上高に占める 比率※	業績予想 (2/9発表)
全社連結	402	10.4%	450
電子	121	7.0%	140
一般水処理	281	13.2%	310

※全社連結または各セグメントの売上高に占める比率

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前期比	業績予想 (2/9発表)
設備投資額 (有形*)	466	389	△ 77	400
減価償却費 (有形*)	258	283	+ 25	273
研究開発費	63	74	+ 11	76

* 使用権資産含む。

- 設備投資額は、超純水供給事業用の設備投資額の減少により、前期比で減少。
- 減価償却費は、前期に稼働開始した超純水供給事業用設備の影響により前期比で増加。
- 研究開発費は、イノベーション創出に向けた取り組み強化により増加。

財政状態

(単位：億円)	2023年3月末	2024年3月末	増減
現金及び現金同等物	505	540	+ 35
その他流動資産	1,459	1,740	+ 281
流動資産合計	1,964	2,280	+ 316
有形固定資産	1,787	1,910	+ 122
のれん	604	710	+ 106
その他非流動資産	660	674	+ 14
非流動資産合計	3,051	3,294	+ 243
資産合計	5,015	5,574	+ 559
流動負債	1,095	1,186	+ 92
非流動負債	963	1,054	+ 91
負債合計	2,058	2,240	+ 182
親会社の所有者に帰属する持分	2,940	3,313	+ 373
非支配持分	18	22	+ 4
資本合計	2,958	3,334	+ 377
負債及び資本合計	5,015	5,574	+ 559

- その他流動資産は、主に営業債権及びその他の債権が増加。
- 有形固定資産の増加は、主に超純水供給事業用設備の建設進捗の影響。
- のれんは、アルカデ・エンジニアリング社の株式の取得と為替影響により増加。
- 負債合計の増加は、主に営業債務及びその他の債務の増加が要因。
- 資本合計の増加は、主に利益剰余金の増加と円安に伴う在外営業活動体の換算差額の増加によるもの。

2 | 2025年3月期 業績予想

- 日本経済は、内需を中心とした底堅い成長軌道に回復する見通し。
- 海外は、中国で半導体投資が活況も不動産不況の継続により景気回復は弱さが残り、欧州はインフレ圧力は緩和も景気は引き続き低調。一方、中国を除くアジアは底堅い成長、米国は緩やかな景気回復が継続すると見込まれる。
- 半導体市場は、生成AI関連やパワー半導体の需要が引き続き成長し、年後半からは景気回復による持ち直しも加わる見通し。
- 需給バランスの変化による部材の不足や長納期化は継続。

業績予想の概要

(単位：億円)		2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
受	注 高	3,902	4,000	+ 2.5%
売	上 高	3,848	4,000	+ 3.9%
事	業 利 益	421	470	+ 11.8%
そ	の 他 の 収 支	△ 8	△ 10	-
営	業 利 益	412	460	+ 11.6%
税	引 前 利 益	417	450	+ 7.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益		292	330	+ 13.1%
基本的1株当たり当期利益（円）		259.70	293.65	+ 13.1%
親会社所有者帰属持分当期利益率（ROE）		9.3%	9.7%	-
投下資本利益率（ROIC）		7.2%	7.9%	-
為替レート	USD（円）	144.6	142.0	
	EUR（円）	156.8	154.0	
	CNY（円）	20.1	19.8	

- 前期の第2四半期からアルカデ・エンジニアリング社を新規連結。

セグメント別業績予想

(単位：億円)		2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
全社	受注高	3,902	4,000	+ 98
	売上高	3,848	4,000	+ 152
	事業利益	421	470	+ 49
	事業利益率	10.9%	11.8%	+ 0.8pp
	営業利益	412	460	+ 48
電子	受注高	1,658	1,700	+ 42
	売上高	1,727	1,690	△ 37
	事業利益	199	210	+ 11
	事業利益率	11.5%	12.4%	+ 0.9pp
	営業利益	202	210	+ 8
一般水処理	受注高	2,243	2,300	+ 57
	売上高	2,121	2,310	+ 189
	事業利益	221	260	+ 39
	事業利益率	10.4%	11.3%	+ 0.8pp
	営業利益	210	250	+ 40

電子

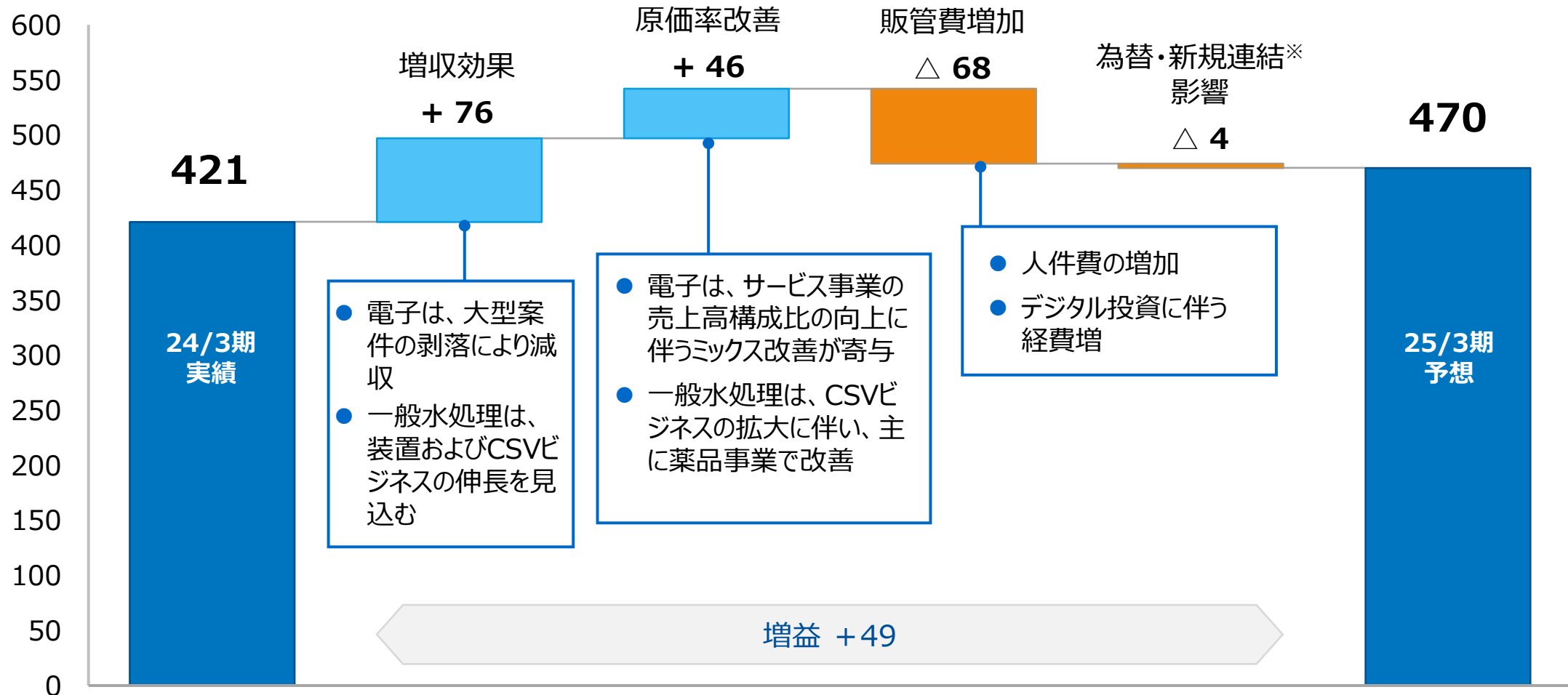
- 前期に装置の大型案件の売上計上があった反動により、売上高は減少。
- 事業利益は、サービス事業の売上高構成比の向上により原価率が改善することから、増益を見込む。

一般水処理

- 装置事業の拡大とCSVビジネスの伸長により、受注高・売上高は増加。
- 事業利益は、増収効果に加え、原価率の改善により増益を見込む。

事業利益の増減要因（前期比）

(単位：億円)



※ 前期の第2四半期からアルカデ・エンジニアリング社を新規連結したため、第1四半期分のみ影響。

(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
受注高	1,658	1,700	+ 42
装置	626	584	△ 43
継続契約型サービス	466	494	+ 28
サービス	566	622	+ 57
薬品	104	109	+ 5
精密洗浄	249	301	+ 52
メンテナンス	212	213	+ 0
売上高	1,727	1,690	△ 37
装置	703	584	△ 119
継続契約型サービス	466	494	+ 28
サービス	558	612	+ 54
薬品	104	110	+ 5
精密洗浄	250	301	+ 50
メンテナンス	203	202	△ 1

- 装置は、前期に半導体投資が活況であったことの反動から受注高の減少を見込む。売上高も前期に大型装置案件の計上があったことから減少する見込み。
- 継続契約型サービスは、新規の水供給案件の開始に伴い増収を見込む。
- 精密洗浄事業は、半導体市況の回復に伴う需要の増加を見込む。
- メンテナンスは、受注高・売上高ともに前年並み。

売上高増減要因

(億円)

オーガニック増減	△ 21
為替影響	△ 16

一般水処理セグメント

(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
受注高	2,243	2,300	+ 57
装置	419	430	+ 11
継続契約型サービス	104	114	+ 10
サービス	1,721	1,756	+ 35
薬品	1,166	1,223	+ 57
メンテナンス	466	447	△ 19
その他	89	86	△ 2
売上高	2,121	2,310	+ 189
装置	298	415	+ 117
継続契約型サービス	102	119	+ 17
サービス	1,721	1,776	+ 55
薬品	1,166	1,223	+ 56
メンテナンス	458	467	+ 9
その他	97	86	△ 10

- 装置は、北米での装置案件の獲得、工事進捗を見込む。
- 継続契約型サービスは、CSVビジネスの伸長を見込み、受注高・売上高ともに増加。
- 薬品は、緩やかな景気回復の影響に加え、CSVビジネスの拡大による増収を見込む。
- メンテナンスは、前期にエンジニアリング洗浄のスポット案件があった反動により受注高は減少。

売上高増減要因

(億円)

オーガニック増減	+ 193
為替影響	△ 21
新規連結影響※	+ 17

※ 前期の第2四半期からアルカデ・エンジニアリング社を新規連結したため、第1四半期分のみ影響。

地域別売上高・CSVビジネス売上高

地域別売上高（全社連結）

(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
日本	1,984	1,877	△ 106
アジア	859	922	+ 63
北南米	636	784	+ 148
EMEA	370	417	+ 47
合計	3,848	4,000	+ 152

地域別売上高（一般水処理セグメント）

(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
日本	1,068	1,091	+ 23
アジア	225	238	+ 12
北南米	458	564	+ 106
EMEA	370	417	+ 47
合計	2,121	2,310	+ 189

地域別売上高（電子セグメント）

(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
日本	916	786	△ 130
アジア	634	685	+ 51
北南米	177	219	+ 42
EMEA	—	—	—
合計	1,727	1,690	△ 37

CSVビジネス売上高

(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 予想	売上高に占める 比率※	前期比
全社連結	402	480	12.0%	+ 78
電子	121	145	8.6%	+ 24
一般水処理	281	335	14.5%	+ 54

※全社連結または各セグメントの売上高に占める比率

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 予想	前期比
設備投資額（有形*）	389	464	+ 75
減価償却費（有形*）	283	315	+ 32
研究開発費	74	75	+ 1

* 使用権資産含む。

- 設備投資額は、超純水供給事業での投資を引き続き見込むほか、精密洗浄事業での投資の拡大により、増加する見込み。
- 減価償却費は、前期に獲得した超純水供事業の稼働開始に伴い増加を見込む。
- 研究開発費は、イノベーション創出に向けた取り組みの継続により、前期並みを見込む。

3 | 中期経営計画「Pioneering Shared Value 2027(PSV-27)」の進捗

PSV-27の目指す姿

企業ビジョン

持続可能な社会の実現に貢献する「水の新たな価値」の開拓者

中期経営計画
PSV-27

2024年
3月期
実績

2025年
3月期
業績予想

PSV-27
2028年
3月期目標

財務指標

売上高	3,848億円	4,000億円	4,500億円
事業利益率	10.9%	11.8%	16%
ROE	9.3%	9.7%	12%以上
ROIC	7.2%	7.9%	10%以上

主要な
非財務指標

(CSVビジネスによる)

節水貢献量	111百万m ³	135百万m ³	300百万m ³
GHG*削減貢献量	733千t	900千t	※1,600千t
資源化貢献量・ 資源投入削減貢献量 の増加割合	△2% (23/3期比)	65% (23/3期比)	300% (23/3期比)

*Greenhouse Gas (温室効果ガス)

※ 進捗を踏まえ、+100千tの上方修正

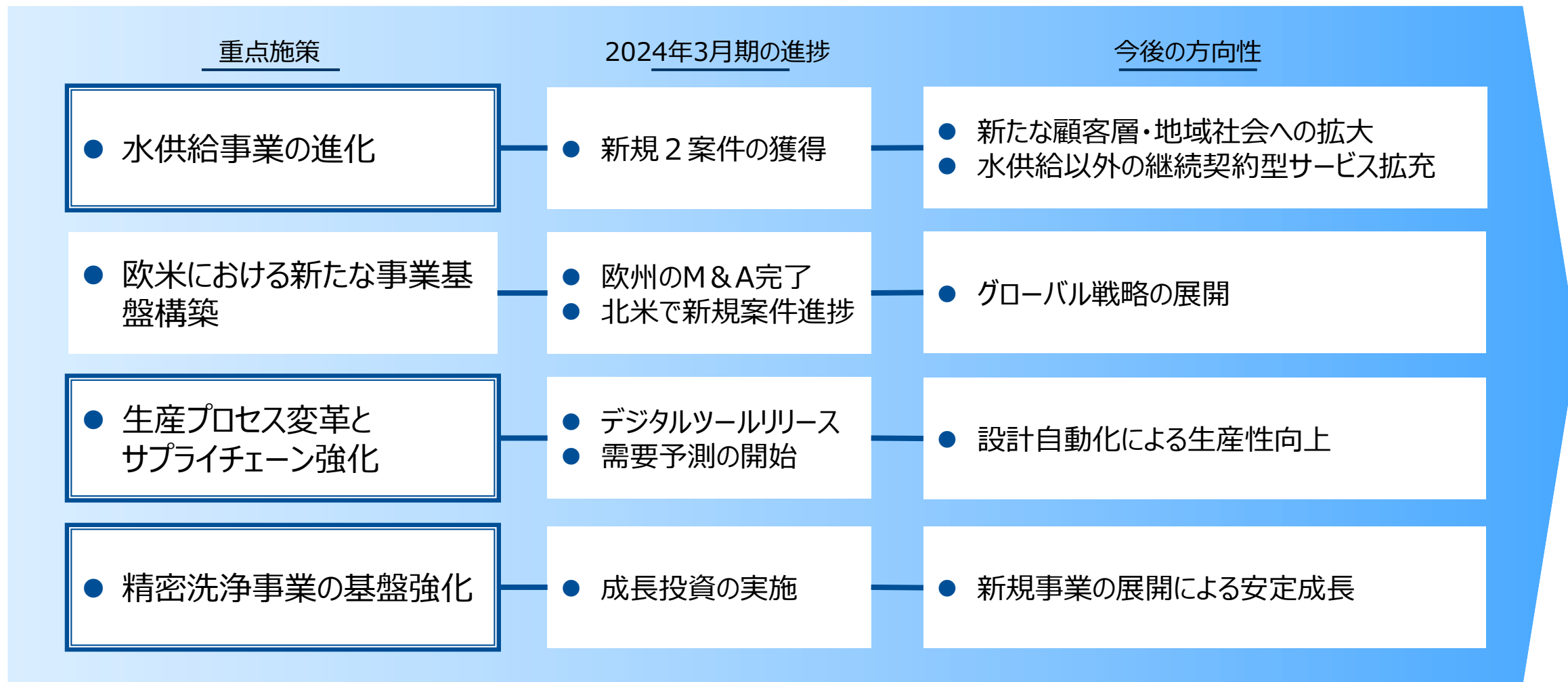
企業価値向上

共通価値の創造

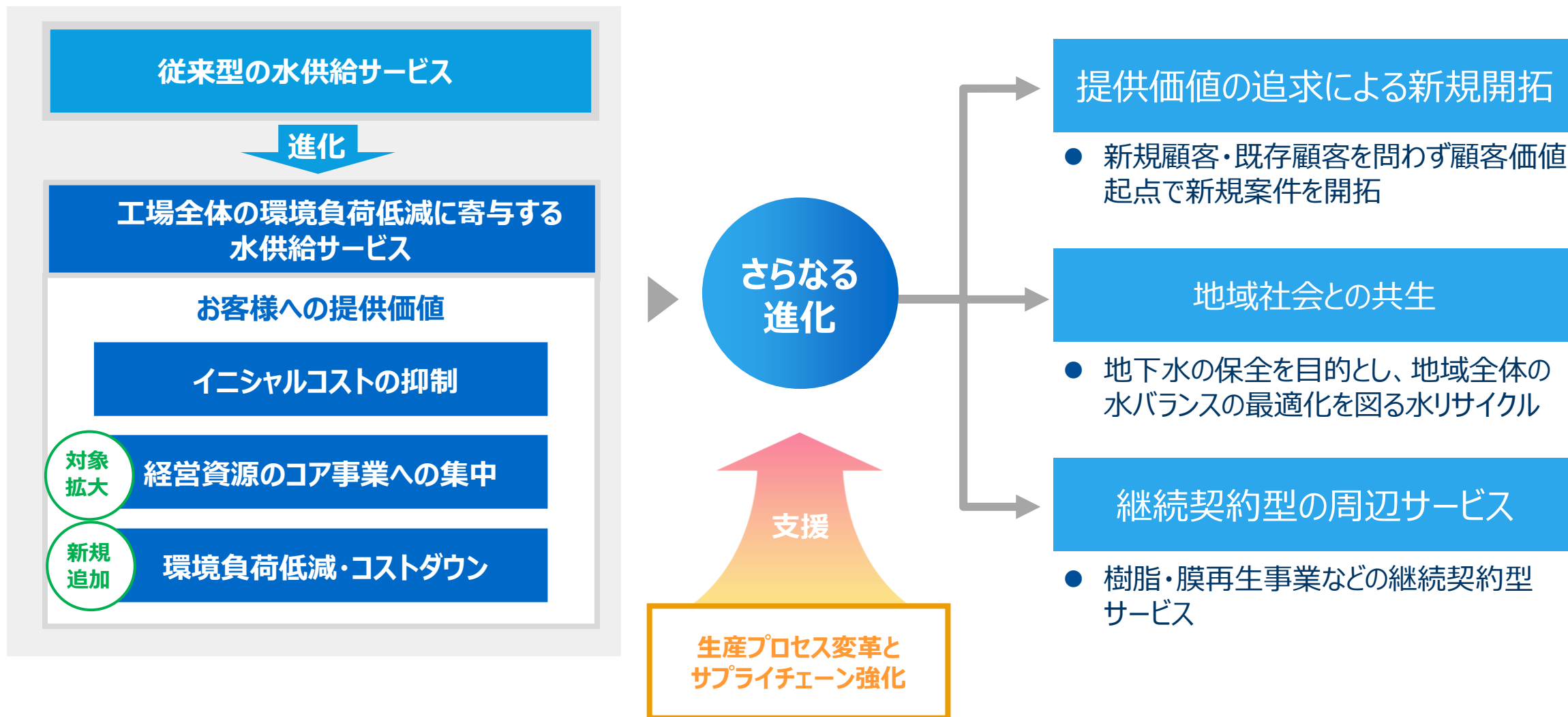
マテリアリティ

共通価値
テーマ

基礎
テーマ



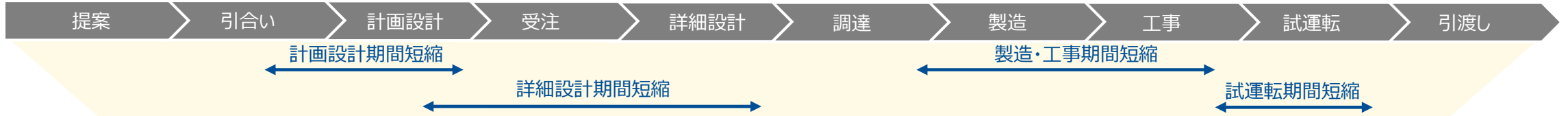
価値起点で水供給のビジネスモデルをさらに進化



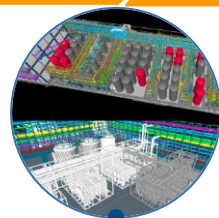
生産プロセス変革とサプライチェーン強化

生産性の向上による対応キャパシティの拡大とコストダウンを推進

Before



After



需要予測

設計自動化

調達効率化

モジュール化

フロントローディング

効率化

2028年3月末までに
生産活動全体のリードタイムを

30%削減

(23/3期比)

生産工数削減

コスト削減

品質向上

対応キャパシティ拡大

半導体市場の底打ちを踏まえた反転攻勢と事業拡大により基盤を強化

PSV-27における取り組み

2024年3月期まで

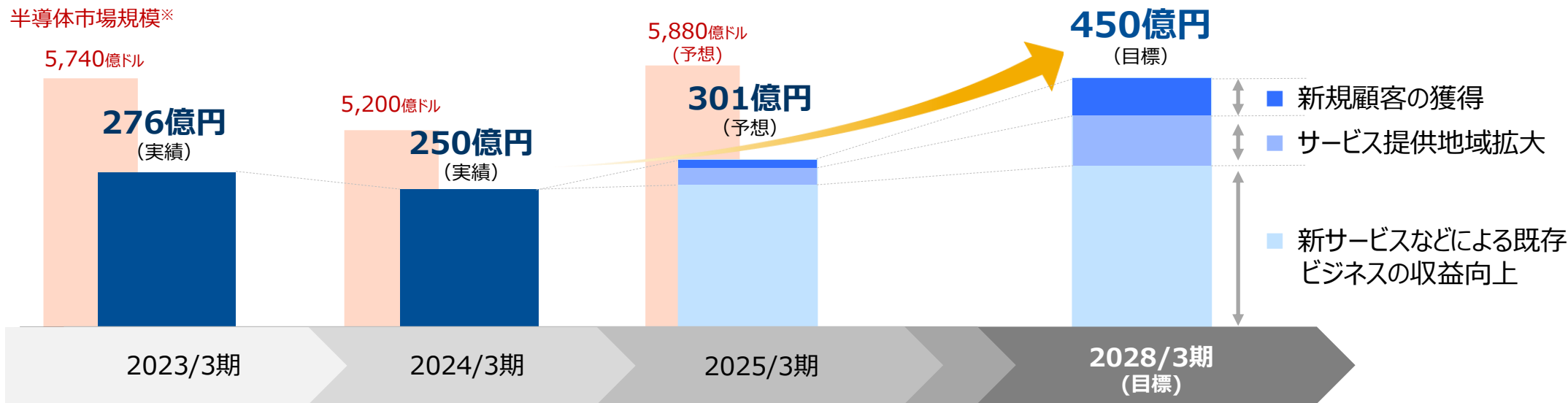
- 日米一体運営体制の構築
- IPランドスケープ活用等による新サービスの検討
- 事業拡大に向けた設備投資や人材の確保

2025年3月期以降

- 展開地域の拡大と新規顧客の獲得
- サービス内容の拡充による収益性向上
- 投資継続、事業拡大に伴うガバナンスの強化

シリコンサイクルの
影響を受けにくい
事業への転換

半導体市場規模※



※ 半導体市場規模は、世界半導体市場統計 (WSTS) から引用

重点施策	2024年3月期の進捗	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none">● CSVビジネスの拡大	<ul style="list-style-type: none">● 好事例の創出など拡大に手ごたえ	<ul style="list-style-type: none">● 顧客価値起点による製品・サービスの強化● 社会価値起点による新規ビジネスの創出
<ul style="list-style-type: none">● 展開加速のためのデジタル基盤活用	<ul style="list-style-type: none">● グループ共通のデータ統合基盤を構築	<ul style="list-style-type: none">● グループ横断的なデータの利活用● お客様コミュニケーションの向上
<ul style="list-style-type: none">● 米国事業の収益改善	<ul style="list-style-type: none">● 事業利益率の改善● 事業基盤の安定	<ul style="list-style-type: none">● さらなる収益性向上とコストダウン
<ul style="list-style-type: none">● 循環型経済社会へ貢献する新規事業への挑戦	<ul style="list-style-type: none">● 使用済紙おむつリサイクルの事業化を推進	<ul style="list-style-type: none">● 紙おむつリサイクル事業の拡大● 社会価値起点によるイノベーション創出による新規事業の開発

顧客価値起点、社会価値起点でモデルの質と量を向上

取り組みの主要テーマ

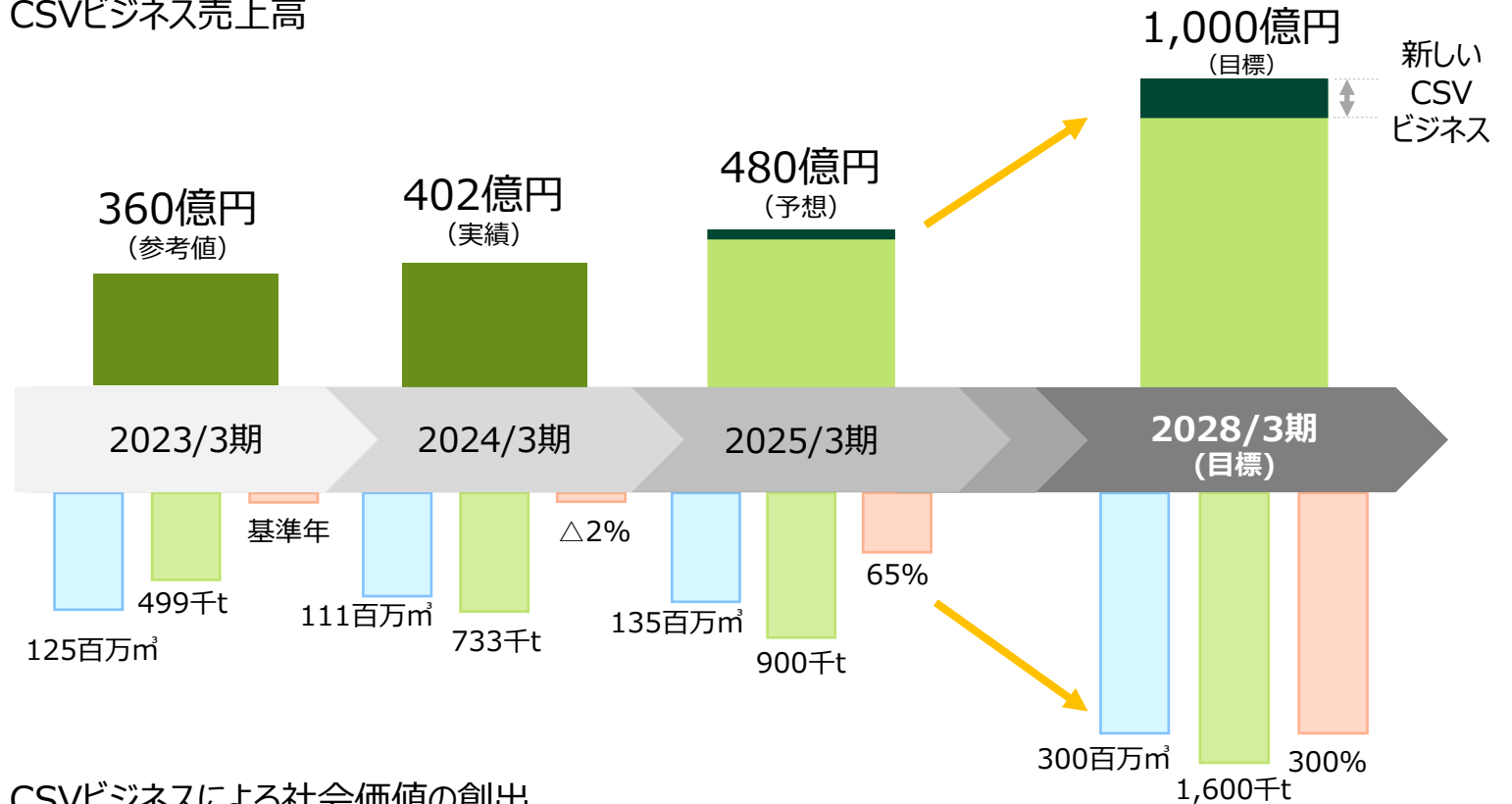
顧客価値起点による
製品・サービスの強化

社会価値起点による
新規ビジネスの創出

CSVビジネス拡大

一般水処理セグメントの
成長をけん引

CSVビジネス売上高



CSVビジネスによる社会価値の創出

- CSVビジネスによる節水貢献量
- CSVビジネスによるGHG*削減貢献量
*Greenhouse Gas (温室効果ガス)
- CSVビジネスによる資源化貢献量・資源投入削減貢献量の増加割合 (23/3期比)

価値貢献と収益性のモニタリングにより、ポテンシャルの高いビジネスモデルを拡大

事例

①

顧客価値起点による製品・サービスの強化

顧客価値

製品・サービス

貢献拡大

顧客ニーズ

- エネルギーコストの削減
- 生産性向上
- GHG排出量削減



紙・パルプ

石油精製・石油化学

顧客層拡大・新市場拡大

事例

②

社会価値起点による新規ビジネスの創出

社会価値

製品・サービス

貢献拡大

社会課題

- 高齢化に伴い紙おむつの廃棄量が増加
- 地方公共団体等における気候変動問題への対応強化



紙おむつ分離システム (クリタサムズシステム)

- 紙おむつリサイクルビジネス2件受注
- 鎌倉市、浜松市との連携協定締結

さらなる事業化拡大

CSVビジネスの推進管理

サステナビリティ推進委員会

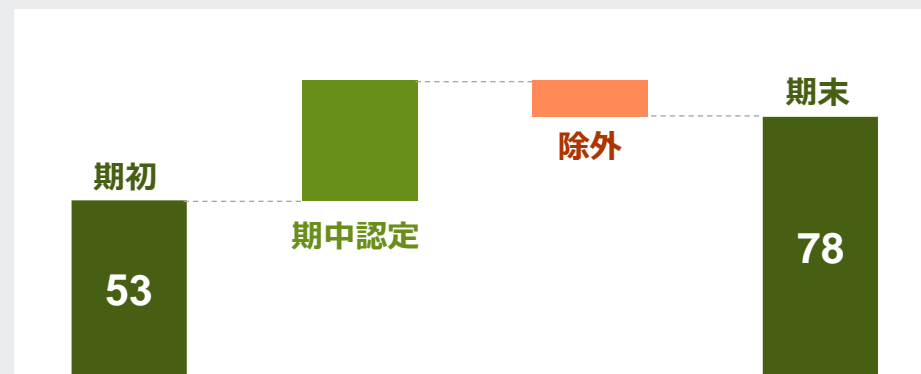
CSVビジネスの量的拡大

- 申請されたビジネスモデルを検証しCSVビジネスとして認定

CSVビジネスの質的向上

- 新規性・優位性・収益性の観点で定期的に価値を検証

2024年3月期におけるCSVビジネスのモデル数の推移



事業用資産・人・技術・しくみへ戦略的に投資

重点投資分野

成長事業投資

- 水供給サービスの新規案件の獲得
- 精密洗浄の拠点増設
- 資源循環に貢献するサービス事業などの拡大

イノベーション創出

- 新規事業開発の機能強化
- 開発人材、知財人材、デジタル人材等の育成・獲得

人的資本強化

- 人材データを活用した多様な人材の確保と活用
- 次世代経営人材教育の強化
- D&Iの浸透によるエンゲージメント向上の仕掛け

デジタル活用

- 事業成長を加速するビジネスDX (AI/IoTの活用、運転管理技術の革新、自動設計など)
- 経営基盤を強化するオペレーションDX (経営情報の一元化など)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 (1年目 実績)	2025年3月期 (2年目 予想)	PSV-27 2028年3月期
設備投資	664億円	466億円	389億円	464億円	5ヵ年累計 3,000億円規模
研究開発費	54億円	63億円	74億円	75億円	—
売上高販管費率	24.8%	23.5%	23.3%	24.0%	2023年3月期の水準を維持

企業価値向上に向けた取り組み

エクイティ
スプレッド拡大

×

着実な
株主還元

=

企業価値の
最大化

エクイティスプレッド拡大 = 利益成長 × 資産効率向上 × 資本コスト最適化

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (予想)	PSV-27 2028年3月期
ROE	7.0%	7.1%	9.3%	9.7%	12%以上
ROIC	7.1%	8.0%	7.2%	7.9%	10%以上
事業利益率	11.4%	11.2%	10.9%	11.8%	16%

株主還元：直近5年間通算で配当性向30%から50%の範囲を目安に財務格付けも維持しつつ、長期的に計画的な増配を継続する方針

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 (予定)	2025年3月期 (予想)	PSV-27 2028年3月期
配当額	72円	78円	84円	92円	長期的に計画的な 増配を継続
配当性向	43.8%	43.5%	32.3%	31.3%	

ROIC向上に向けた取り組み

- 事業別ROICを算出し、各事業の特性に応じた重点施策を推進
- CCC（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）の改善活動を展開
- ROICの改善を執行役・執行役員業績評価指標として設定済み

4 | Appendix

CSVビジネス事例：再生水供給サービス

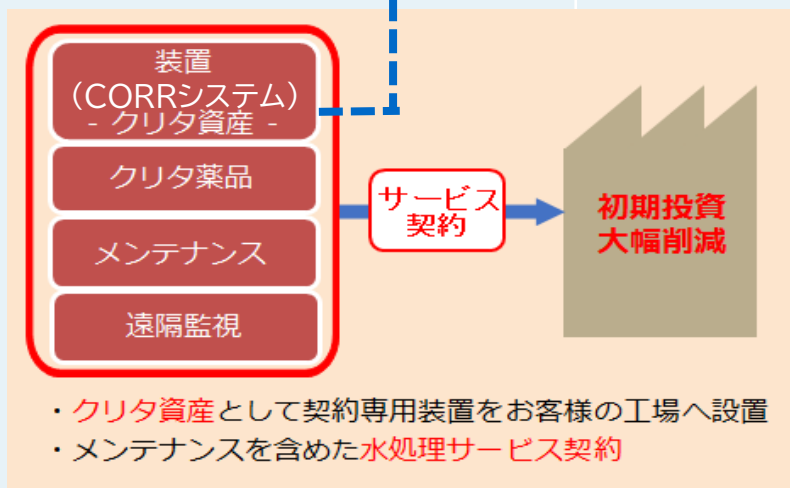
地域×業種		社会課題	ソリューション、競争優位性、および社会価値		市場規模(推定)
地域	日本 中国 (韓国、台湾、 北米も視野)	気候変動の影響や、人口の増加、 工業化の進展等により、製造業に不 可欠な水資源の不足	ソリューション	多種多様な排水を回収し、製造工程等で再利用可能な水質まで浄化し た水（再生水）を供給し、お客様の節水に貢献する。	
業種	化学工業 電子産業 自動車産業 鉄鋼業		競争優位性	①複数の特許による権利保護 ②高稼働率での安定運転 ③要望に応じた水量・水質での再生水の提供	
		【SDGs該当目標】	社会価値 (該当するマテリア リティテーマ および指標)	水資源の問題解決	節水貢献量
					480億円/年

公開情報

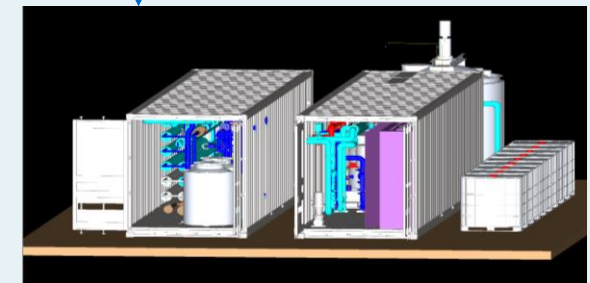
紹介動画：[こちらをクリック](#)

導入したお客様の声：[こちらをクリック](#)



サービス概要



革新的な水回収技術：CORRシステム



CSVビジネス事例：Kurita Dropwise Technology

地域×業種		社会課題	ソリューション、競争優位性、および社会価値		市場規模(推定)	
地域	グローバル	①GHG排出による地球温暖化 ②環境配慮技術の導入拡大の促進	ソリューション	蒸気を用いる熱交換器に撥水性を付与し、熱伝達率を向上させ、生産性の向上、および省エネルギーに寄与する。		300億円/年
			競争優位性	①複数の特許による権利保護 ②広い適用範囲で簡易に適用可能 ③顧客価値を数値化する解析ノウハウ		
業種	(蒸気を使用する) 製造業全般	【SDGs該当目標】  	社会価値 (該当するマテリアリティテーマおよび指標)	脱炭素社会実現への貢献	GHG削減貢献量	

公開情報

紹介動画：[こちらをクリック](#)



参考情報：

- 2019年度 省エネ大賞「資源エネルギー庁長官賞」受賞
- 2022年度 関東地方発明表彰「発明奨励賞」受賞
- 2023年度 第51回紙パルプ技術協会「佐々木賞」受賞

ソリューション概要



CSVビジネス事例：使用済紙おむつリサイクルシステム

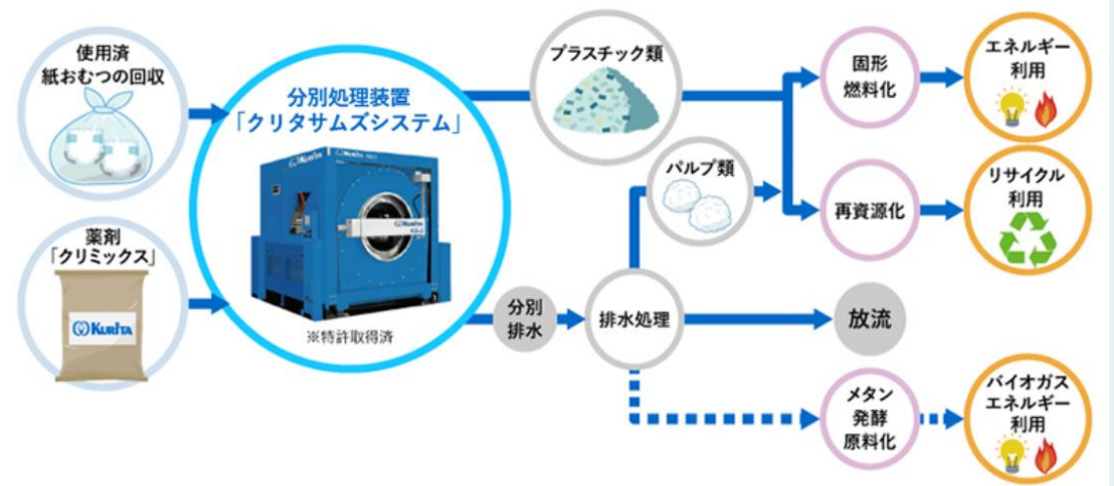
地域×業種		社会課題	ソリューション、競争優位性、および社会価値		市場規模(推定)
地域	日本	高齢化社会の進行等により、 ①使用済紙おむつの廃棄物量の増加 ②使用済紙おむつの焼却に伴う エネルギー消費量、 およびCO ₂ 排出量の増加	ソリューション	焼却処分していた使用済紙おむつを殺菌・洗浄・分解し、プラスチック類とパルプ類に分別し再資源化する。	600億円/年 (2030年)
	業種		地方自治体 ・ 廃棄物 処理業者	競争優位性	
		【SDGs該当目標】  	社会価値 (該当するマテリアリティテーマおよび指標)	・脱炭素社会実現への貢献 ・循環型経済社会構築への貢献 ・GHG削減貢献量 ・資源化貢献量・資源投入削減貢献量の増加割合	

公開情報

紹介動画：[こちらをクリック](#)

参考情報：
 令和3～4年度 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
 脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業に採択

システムフロー





将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている見通し数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

本資料内で使用している製品・サービス名およびロゴは、当社または他社の商標または登録商標です。